

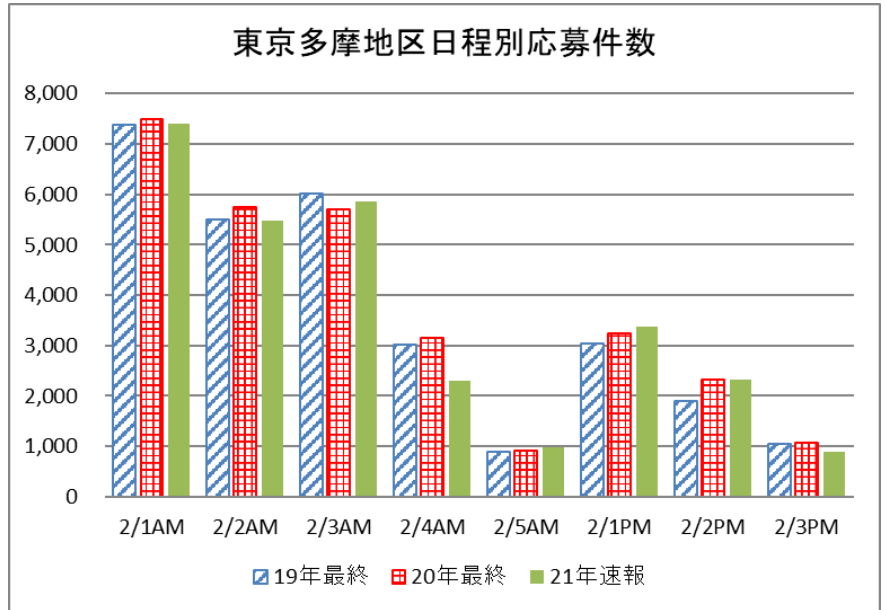
東京多摩地区私国立中入試概況

1. 概況 中学受験規模はほぼ昨年並み、応募総数はやや減少

今年の郡部を含む多摩地区の公立小6年生の児童数は約35,000名で、昨年より約100名減少しています。1月までに実施される帰国生入試を含めた、3月5日現在の中学受験の応募総数は私立、国立、公立一貫校の合計約30,600件で、昨年の最終から約800件減少しました。一部に入試結果未公表の学校やコロナ禍対応や追加の入試を行う学校などがあり、今後その分が上乘せされます。昨年まで増加が続いていましたが、今年は減っています。実際の受験者数は約22,600名で、昨年最終の約

23,500名より約900名減少、合格者数は約9,100名で、昨年最終より約100名減っています。合格者数にはコース制実施校での上位コース入試での入りやすいコースのスライド合格や、特待入試での一般合格を含まない学校もありますから、「入学できる合格者数」はもっと増えますが、実際の受験者数が5%減、合格者数は2%減なので、受験者数の減少よりも合格者数の減少幅が小さく、若干ですが入りやすくなったことになりま

す。
上のグラフは中学受験の各校の応募者数を日程別に集計して一昨年、昨年と比較したものです。私立、国立、公立一貫校の合計で、今年速報値です。応募総数では2月1日午前が今年も最多で、第一志望の受験生が多く、昨年より100名弱減っています。このくらいであれば、中学受験規模は昨年並みと考えてよいでしょう。2番目は、昨年は僅差で2日午前でしたが、今年は2日午前が少し減って、3日午前が増えたため、一昨年と同様3日午前が2番目、次が2日午前になっています。今年都立の一貫校の応募者が減っていて、3日の増加は私立が増加した結果です。午前入試は4日や5日になると応募者が少なくなりますが、4日は



特に減少が目立ちます。吉祥女子が4日の入試を取りやめたことが大きく影響しています。

午後入試は1日午後が増加、2日午後が昨年並み、規模が小さい3日午後は少し減りました。23区では1日午後、2日午後とも4日午前よりもかなり多い応募者数です。23区ほど午後入試が広がっていませんが、多摩地区で多くの応募者を集めている学校は早稲田実業や法政大学、明治系など有名大学の附属校が多く、これらの各校が午後入試を実施していないことが影響しています。また、午後入試の実施校は多摩地区でも決して少なくないのですが、午前入試で23区の学校を選ぶ受験生は、移動時間もあって午後入試も23区の学校を選ぶケースが多く、コロナ禍があっても東京都心志向が強かったことの表れです。

今回は、難易度による志望校選択の傾向を見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA~Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外

しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。

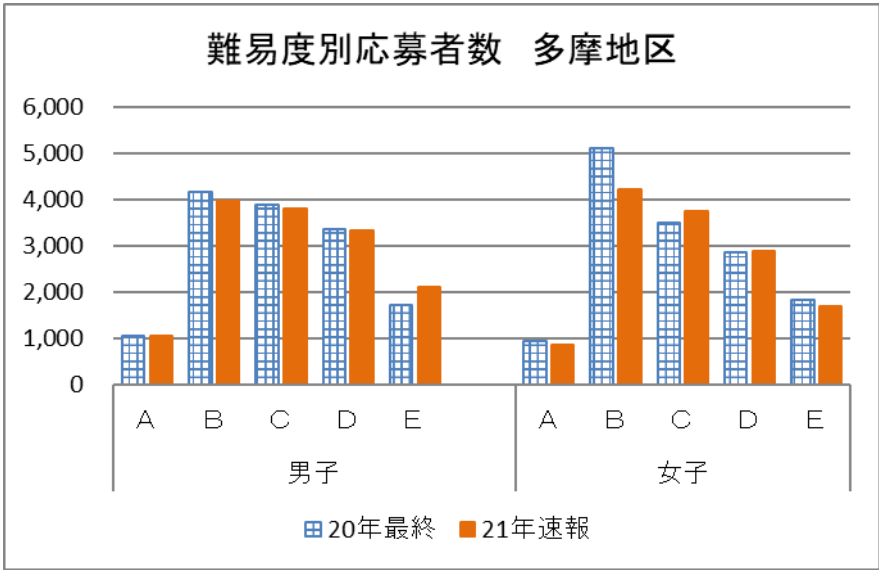
男子は、最難関のAグループが一番少ない応募状況で、昨年並みの応募者数です。最多はBグループで、C、D、Eグループと減っていきませんが、B～Dグループは昨年より少しずつ減っていて、Eグループはかなり増えました。応募者の増加が目立つ学校もありますが、安全志向が強くなったことも増加の理由でしょう。

女子もAグループが最少で、今年は応募者がやや減っています。やはり最多はBグループで、C、D、Eグループと減っていきませんが、Bグループの減少が目立ちます。吉祥女子が3回入試から2回に変更したことが大きく影響して

います。Cグループは増加していて、昨年ならBグループに出願した受験生が、安全志向からCグループに流れたのでしょうか。Dグループは昨年並みですが、男子と違ってEグループは減っています。

以下、各校の入試状況を見ていきます。なお、都立の立川国際、南多摩、三鷹、武蔵高附属は、公立一貫校の資料をご覧ください。

☆



◎ 難易度別グルーピング

- 本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で多摩地区私国立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。
- A…明大明治・早稲田実業
 - B…吉祥女子・成蹊・中大附属・帝京大学・桐朋・法政大学
・明大中野八王子
 - C…穎明館・大妻多摩・桜美林・晃華学園・創価
・八王子学園(東大医進)・明治学院・東京学芸大小金井
・東京電機大
 - D…共立女子第二・工学院大附属・聖徳学園(特奨)・玉川学園
・多摩大聖ヶ丘・東京純心女子・桐朋女子・ドルトン東京学園
・日大第三・八王子学園(一貫特進)・武蔵野大学
・明法(サイエンスGE)
 - E…サレジオ(小平)・国立音大・啓明学園・駒沢学園女子
・白梅学園清修・自由学園男子部・同女子部・聖徳学園(一般)
・帝京八王子・東海大菅生・東星学園・日体大桜華
・八王子実践・藤村女子・明星学園・武蔵野東・明星
・明法(進学GRIT・国際理解)・和光

2. 男子校・女子校

男子校から。桐朋の応募者数は、2月1日の1回、2日の2回の合計で一昨年が増加、昨年はほぼ一昨年並み、今年はやや減っています。1回は昨年並みでしたから減少は2回です。併願受験生が減っているようです。合格最低点は1・2回とも昨年並みで、難度は変わっていないようです。

明法は国際理解、進学GRIT、サイエンスGEの3コース制です。一昨年、高校募集を共学化しました

が、中学募集は男子校のままで、小規模な入試の学校です。今年は2月2日午後に算数1教科入試を新設しました。各回次合計の応募者数は昨年より増えていますが、やはり小規模な入試でした。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、難度面ではあまり変化がなかったようです。高校が併設されていないサレジオ(小平)も小規模な入試の学校で、今年は2月10日に2次入試を新設しました。今年も小規模で、難度もあまり変わっていないようです。

女子校は吉祥女子から。昨年まで3回入試を行っていましたが、2月4日の3回を廃止し、1日・2日の1・2回入試としました。3回を廃止した分、1・2回は定員を増やしています。一昨年、昨年は各回次合計の応募者数が増えていましたが、3回を廃止しましたから今年は大きく減っていて、1回は昨年並み、2回は少し減った応募者数でした。合格最低点は1回が昨年並みで難度に変化は見られません。2回は少し下がっています。出題内容の影響はありますが、少し入りやすくなったかもしれません。

カトリック校の晃華学園の各回次合計の応募者数は、一昨年午後入試を新設して大きく増加し、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。2月1日午前の1回は小幅の増加で、1日午後の2回と3日午前の3回が増加の中心ですから、併願受験生が増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みでした。合格最低点は各回次とも少し上がっています。出題内容との関係もありますが、1回はともかく、2・3回は少し難化したようです。

大妻多摩は昨年から国際教養、総合進学の2コース制になっています。2月1日午前の総合思考力型入試を適性検査型思考力入試に衣替えしました。一昨年は各回次合計の応募者数が減っていて昨年は一昨年並み、今年は少し増えています。2コース制の受験生への浸透が進んできたようです。実際の受験者数も増えましたが、合格者は絞っていて、各回次とも合格最低点が上がっています。昨年は少し入りやすくなっていましたが、今年は難化しています。

共立女子第二の各回次合計の応募者数は、一昨年減少から増加に転じ、昨年、今年と3年連続で増えて人気が上がっています。2月1日午前は昨年並みですが、1日午後と2日午前・午後が増えていて、併願受験生が増えています。1日午前の2科4科入試は合格最低

点が上がって、少し難化しています。1日午前の適性検査型、1日午後と2日午前・午後は昨年並みで、難度に変化は見られません。

桐朋女子は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しました。各回次合計の応募者数は一昨年が増えていて、昨年、今年は前年並みが続き、人気は安定しています。口頭試問や英語型は合格最低点が公表されていませんが、2月2日午前の論理的思考力・発想力入試は昨年とあまり変わっていません。2日午後のB入試は2科の合格最低点下がっていますが、得点分布の関係でしょう。難度面ではあまり変わっていないようです。白梅学園清修は2月2日午前入試を2教科選択に変更、4日午前に入試を新設しました。一昨年は各回次合計の応募者数が減って小規模な入試でしたが、昨年は増加、小規模を脱して今年はさらに増えています。合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、難度面はあまり変わっていないようです。

東京純心女子は小規模な入試の学校です。2月2日午前の適性検査型入試を取りやめました。各回次合計の応募者数は一昨年増加して小規模な入試を脱しましたが、昨年は再び少し減って小規模な入試に戻っていて、今年はさらに少し減っています。合格最低点はやや上下していますが、学校としてのラインを守る姿勢の表れで、全体的な難度は変わっていません。

藤村女子は、プレミアム入試以外の4科入試を取りやめ、2月1日午前にプレゼンの入試やゲーム感覚で思考力を図る謎解き入試を新設するなどの変更がありました。今年も小規模な入試でした。駒沢学園女子は2月1日午後を1科目入試にしました。同校も、今年も小規模な入試でした。日体大桜華も応募者が増えていますが、やはり小規模で、藤村女子、駒沢学園女子、日体大桜華とも難度に変化は見られません。

3. 男女校

付属カラーの強い学校から見ていきます。早稲田実業は、一昨年は男女とも応募者が増加、昨年は男子が減少、女子は一昨年並み、男子は今年も減少、女子はやや減りました。受験生の安全志向が強く、少し敬遠傾向が出ているようです。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、もともと高難度ですから、難度が緩和したとしても僅かでしょう。

明大明治は、一昨年は男子の応募者数が2月2日の

1回が前年並み、3日の2回は少し増えましたが、女子は1・2回とも減っていました。昨年は男子が1・2回とも減少、1回の女子は増加、2回は一昨年並みでした。今年も1・2回男女とも小幅な増減で、合計すると昨年並みの応募者数です。同校は男女別の入学生のバランスが取れなくなってきたためか、昨年から男女別の定員に移行しています。合格最低点は1・2回男女とも昨年並みで、難度面はあまり変わっていません。系列校の明大中野八王子は、各回次合計の応募者数は一昨年からやや増えていて、昨年は少し減少、今年も昨年並みで安定した応募者数が続いています。細かく見ると2月3日のA2回の男子が増えて、5日午後のBは男女とも少し減るなどの変化が見られます。合格最低点は応募者が増えたA2回の男子が少し上がっていて、やや難化したかもしれません。A2回の女子や他の回次の男女は昨年並みで、難度に変化はなかったようです。

法政大学は、各回次合計の応募者数は一昨年から前年並み、昨年はやや減っていましたが、今年も各回次男女とも増えています。各回次とも女子の増加が男子よりも大きく、女子の人気が目立ちます。合格最低点は2月3日の2回が男女とも上がっていますが、補欠を出していますから得点分布の関係でしょう。1日の1回、5日の3回は昨年並みで、難度はあまり変わっていないようです。女子が男子よりも高い傾向は今年も続いています。中央大学附属の各回次合計の応募者数は、一昨年から帰国生入試の新設もあって少し増えて、昨年も増加しましたが、今年も減って一昨年並みに戻りました。2月1日の1回の女子は昨年並みで、それ以外が少しずつ減っています。実際の受験者数も少し減っていますが、合格者数は昨年並みです。合格最低点は公表されていませんが、難度面は少し緩和したかもしれません。

成蹊は一般入試と国際学級入試を行っていて、さらに2月1日午前の1回に帰国枠を設定しています。応募者数は、一昨年は各回次男女とも増加、昨年は国際学級と1回が昨年並み、2回が少し増えました。今年も各回次、男女でやや増減が見られるものもありますが、合計では昨年とあまり変わっていません。合格最低点は1回が昨年並み、2回は男女ともやや下がっていますが、得点分布の関係でしょう。難度はあまり変わっていないようです。独特な存在の創価は、2月1日午前のみの入試です。応募者数は、一昨年は男子が

やや増えて女子が前年並み、昨年は男女とも少し減っていて、今年も男子が若干減、女子は減っています。合格最低点は公表されていませんが、男子は昨年並みの難度、女子は少し入りやすかったかもしれません。

明治学院は、各回次合計の応募者数の増加が続いていて、今年も増えて人気が上がっています。各回次男女とも増えていますが、女子の増加が男子よりも大きくなっています。昨年は男子が増加の中心でした。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は増えていません。合格最低点は2月1日午後の1回が昨年並みですが、2日午前の2回は少し上がり、4日午前の3回は上がりました。遅い日程に行くほど厳しい入試になっています。玉川学園は国際バカロレア(I B)クラスを持つ学校です。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と増加が続いていましたが、今年も若干減っています。同校は首都圏でのI Bの草分けであることもあって、固定ファンが多い学校で、難度面は各回次とも昨年並みでしょう。

東海大菅生は2月1日午後の特待入試に算数1科目を追加しました。各回次合計の応募者数は、一昨年は減少しましたが、昨年は増加、今年も増加して人気が上がっています。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、不合格者は少なく、難度はあまり変わっていないようです。帝京八王子は2月1日午前・2日午前の入試で4科選択を、7日午前の1科選択入試で理社を取りやめるなどの変更がありました。小規模な入試の学校で、各回次合計では昨年並みの応募者数でした。同校も難度に変化はなさそうです。

明星はグローバルサイエンス(MG S)と本科の2コース制です。今年も曜日の関係で帰国生入試の日程を変更、2月4日午後に英語特化型、6日にも2教科入試を新設しました。入試の新設が盛んで、昨年まで各回次合計の応募者数は増加を続けていて、今年も増えています。実際の受験者数も増えましたが、合格者数は昨年より減らしています。合格最低点は公表されていませんが、MG Sは性格上昨年並みの難度、本科はやや難化したかもしれません。

独特な教育方針の和光は、2月2日午前の入試を午後に移しました。各回次合計の応募者数は、一昨年は増加、昨年と今年も前年並みが続いて安定した人気です。ただ、実際の受験者数は少し減っています。合格最低点は公表されていませんが、難度は特に変わって

いないようです。国立音大附属は、音楽のプロを目指すコース、音楽教養のコース、一般的な文理コースの3コース制で、小規模な入試の学校です。各回次合計の応募者数は少し減っていて、難度もあまり変わっていません。

系列大学があっても付属カラーが薄い学校では、帝京大学は一昨年が各回次とも応募者が増えていて、昨年は2月1日午前の男子が一昨年並みの応募者数だったほかはすべて増加しましたが、今年は各回次男女とも応募者が減りました。上がっていた人気が一段落しています。合格最低点は2日の2回が下がっていて、少し入りやすくなっています。他の回次は昨年並みでした。東京電機大は2月1日午後の2回を1教科入試に変更しました。一昨年は各回次とも応募者が増加、昨年は2回の男子がやや減ったものの、それ以外は一昨年並みの応募者数、今年は1日午前の1回は昨年並み、2回は大きく増えて、2日午前の3回はやや増加、4日午後の4回も増えました。合格最低点は1回の4科が下がっていますが、出題内容との関係でしょう。難度はあまり変わっていないようです。2回は科目が変わっていますが得点率にはあまり変化がなく、3・4回は少し変動が見られるものの、難度としては昨年並みでしょう。

桜美林は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更したほか、2月3日午後を算数1科に変更しました。一昨年は各回次合計の応募者が増えていましたが、昨年、今年と減少が続きました。1日午前と2日午前は少し増えていますから、応募者が減ったのは午後入試で、併願前提の受験生が中心です。合格最低点は1日午前の総合学力Aが上がっていますが、出題内容の関係でしょう。難度はあまり変わっていないようです。1教科に変更になった3日午後は得点率が上がっていますが、こちらも同様でしょう。他の回次は昨年並みでした。

武蔵野大学は一昨年、武蔵野女子学院が共学化して校名を変更した学校です。共学化で応募者は大きく増えていて、昨年は一部の日程で科目選択を拡大したほか、思考力入試を、「アドベンチャー入試」として基礎学力テスト+スカベンジャーハントの入試に衣替えるなどの変更で、各回次合計の応募者数はさらに大きく増えました。もっとも実際には新タイプの入試よりも従来型の入試の応募者が多数派です。さすがに今年

は人気が一段落したようで、各回次合計の応募者数は減っています。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は少し増えています。合格最低点は公表されていませんが、受験生の学力層が上昇傾向だったことから、合格者が増えても難度面ではあまり変わらなかったようです。

日大第三は、一昨年は各回次合計の応募者数が少し減っていましたが、昨年は増加、今年も少し増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並み、厳密には若干減っていて、実質倍率はやや上がりました。今年から4科の満点が変わっているため、合格最低点の単純比較はできませんが、2科では各回次とも昨年並みで、難度はあまり変わっていないようです。多摩大聖ヶ丘は2月3日午後に新タイプのリスニング入試を新設しました。一昨年は各回次とも応募者が増加、昨年は各回次合計ではやや減っていて、今年は増えましたが、回次ごとでは小幅な増減が見られます。実際の受験者数、合格者数は昨年並みでした。合格最低点は総じて昨年並みで、難度面は変わっていないようです。

工学院大附属はハイブリッド特進、ハイブリッド特進理数、ハイブリッドインターの3コース制で、グローバル対応を強化した教育内容です。各回次合計の応募者数は一昨年まで少しずつ減っていましたが、新宿の大学キャンパスからも直行のスクールバスを運行するなどの取り組みを行って、昨年、今年と増加が続いています。実際の受験者数、合格者数も増えました。合格最低点は未公表ですが、各コース各回次の難度はあまり変わっていないようです。

純然たる進学校では、穎明館は一昨年、2月2日午後に入試を新設、多くの受験生が集まり、それまで減っていた各回次合計の応募者数も増加しました。昨年も大きく増加しましたが今年は減っています。実質倍率の上昇が続いたため、反動が出たようです。実際の受験者数も減っていて、合格者数も減っています。合格最低点はあまり変わっていませんが、実質倍率は緩和したため、ボーダーライン付近では少し入りやすくなったかもしれません。一昨年新設開校したドルトン東京学園は、曜日の関係で12月の帰国生入試の日程を変更、2月2日午後のプラス型入試と英語型入試を午前に移しました。各回次合計で初年度の一昨年は650名近い応募者があり、2年目の昨年は800名を超え、

今年は900名も突破して順調に推移しています。国内の難関大学だけでなく海外大学も狙い、アクティブラーニング型授業やICTの活用など、最先端の教育を実施する点が支持されているのでしょうか。合格最低点は公表されておらず、実際の受験者数が増えて合格者が増えないことから、やや難化したかもしれません。

八王子学園は東大医進と一貫特進の2コース制です。今年は2月2日午後の入試を一貫特進入試から東大医進入試に切り替えました。一昨年は各回次合計の応募者がやや減っていて、昨年は大きく増加、今年は再びやや減っていて、段階的に増加していることとなります。実際の受験者数は減っていて、合格者数も減っていますがこちらは小幅です。2月3日午後の一貫特進入試は合格最低点が少し上がっていますが、出題内容の関係でしょう。他の回次は東大医進、一貫特進各回次とも昨年並みの合格最低点で、難度に変化はなさそうです。聖徳学園は、プログラミング入試を新設するなど、ICTの利用を積極的に進めています。今年は2月1日午前のAO入試と一般入試の科目を変更、2日午後の特奨入試を取りやめました。各回次合計の応募者数は、一昨年は少し減って、昨年は増加、今年も少し増えています。実際の受験者数、合格者数も少し増えている、合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度はあまり変わっていません。

独特な教育方針の明星学園は、曜日の関係で帰国入試日程を変更しました。各回次合計の応募者数が一昨年まで連続して増加、昨年は一昨年並み、今年は増加しました。2月1日午後B入試は昨年並みの応募者数で、他の回次が増えました。実際の受験者数も増え

ていますが、合格者は増えていません。合格最低点は公表されていませんが、各回次とも少し難化したかもしれません。国立の学芸大小金井は昨年まで前年並みの安定した応募者数が続いていましたが、今年は女子が増えています。男子も少し増えました。今年も補欠が出ていて、難度はあまり変わっていないようです。

帰国生教育が特色の啓明学園は小規模な入試の学校で、今年は2月1日午後英語1科の入試を新設、3日の入試を2日に移しました。昨年は各回次合計の応募者数が倍増しましたが、今年は少し減っています。合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、難度面はあまり変わっていないようです。インクルーシブ教育の武蔵野東は、小規模ですが多彩な入試科目の学校です。今年は一部の日程で科目選択を拡大するなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は昨年並みで、今年も小規模な入試で、難度にも変化は見られません。

八王子実践は一昨年から国算の教科型の入試は行わず、適性検査型、自己表現、英語、プログラミングです。もともと小規模な入試で、今年も小規模で難度も変わっていません。自由学園は男女別学の独特な方針の学校で、入試は小規模です。今年は2月10日入試を新設しました。最近は広報活動にも力を入れていますが、今年も小規模な入試でした。東星学園も、2月2日午後国語のみの入試を新設するなどの変更がありました。今年も小規模な入試でした。

MEMO